

株主・投資家のみなさまへ

第121期 第2四半期ビジネスレポート

2022年4月1日～2022年9月30日

証券コード: 6516

<https://www.sanyodenki.co.jp/>

SANYO DENKI

121 st



代表取締役会長
山本 茂生

株主のみなさまには、ますますご清栄のこととおよこび申し上げます。

第121期の第2四半期のビジネスレポートのお届けにあたりまして、当第2四半期の概況や取り組みについてご報告申し上げます。

当第2四半期の概況

当第2四半期連結累計期間における世界経済は、資源価格の高騰や、安定的なエネルギー源の確保への懸念があるなか、欧米では工業生産を中心に底堅い動きが見られ、中国ではロックダウン解除後に緩やかな景気回復の兆しが見られました。日本経済においても、好調な企業収益を背景とした設備投資の活発化により、製造業を中心に回復基調が続きました。

そのようななかで、当社グループの主要な販売市場である通信装置、ロボット、半導体製造装置などのファクトリーオートメーション市場からの需要は活況を呈しました。

第9次中期経営計画と現在の取り組み

2021年4月からスタートした第9次中期経営計画では、「殻を破る」をテーマに、今までになかった新しいこと、新しいやり方を創出し、山洋電気グループがグローバル企業として「世界のトップブランド」を構築することを目標としています。2年目の今年は、引き続きグローバルな設計・開発体制や営業体制の拡充を進めています。

当第2四半期は、部品材料の不足、部材の価格高騰など経営環境が大きく変化し、厳しい状況となりました。

部品材料の不足については、当社の世界中にある販売拠点を利用して、国際調達活動をおこなっています。これにより国内調達だけでは不足する部品を海外で調達するほか、市場変動に即応した安定調達が可能となる体制づくりに取り組んでおります。

このほか、汎用性のある部品を使って、従来と同性能となるように設計変更するなど、お客さまに少しでも早く製品をお届けするための取り組みをおこなっています。

利益率改善の取り組みとしては、自動化ラインの効果を最大限に発揮できる新製品への移行を加速させるために、自動化効果の小さい旧来製品の生産を中止するなど、利益性の向上を図ってまいります。

配当について

当社グループの業績においては、通信装置や、ロボット、半導体製造装置などのファクトリーオートメーション市場からの需要が増加し、売上収益および営業利益は予想を上回りました。また、急激な円安の影響による為替差益の計上により、税引前四半期利益、親会社の所有者に帰属する四半期利益につきましても予想を上回り、結果は後述のとおりとなりました。なお、当第2四半期末の配当金につきましても、1株あたり65円といたしました。

株主のみなさまには、今後とも変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2022年12月

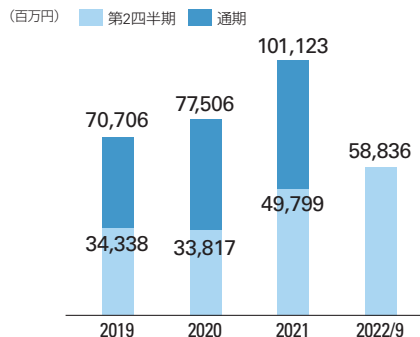
売上収益
58,836 百万円
前年同期比 **18.1%** 増

営業利益
6,648 百万円
前年同期比 **24.8%** 増

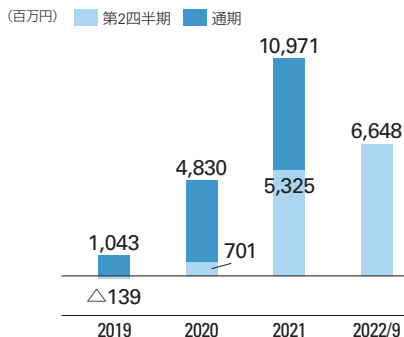
税引前四半期利益
8,203 百万円
前年同期比 **48.9%** 増

親会社の所有者に帰属する四半期利益
6,253 百万円
前年同期比 **53.6%** 増

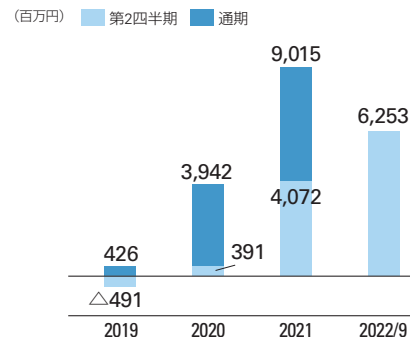
● 売上収益



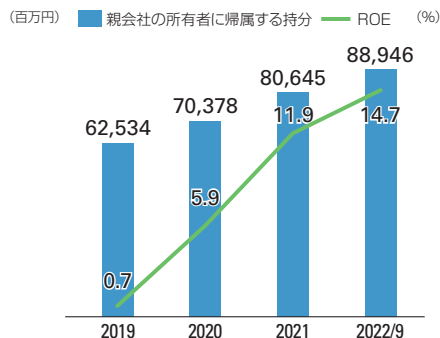
● 営業利益



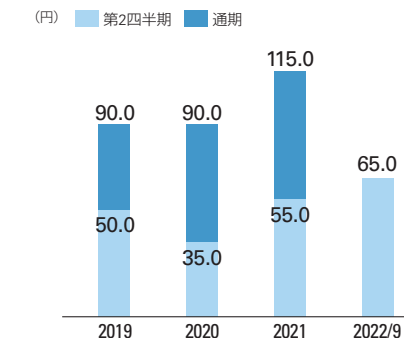
● 親会社の所有者に帰属する当期利益



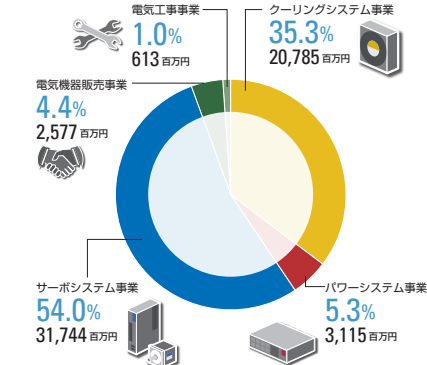
● 親会社の所有者に帰属する持分／ROE



● 1株当たり配当金



● 事業別連結売上収益構成比



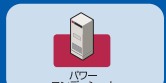
社会の中の山洋電気

当社グループは、社会課題の解決に真摯に向き合い、これまでにない製品の開発や、サービスを提供していくことで、新たな価値の創出に取り組みます。

5G 通信



再生可能エネルギー



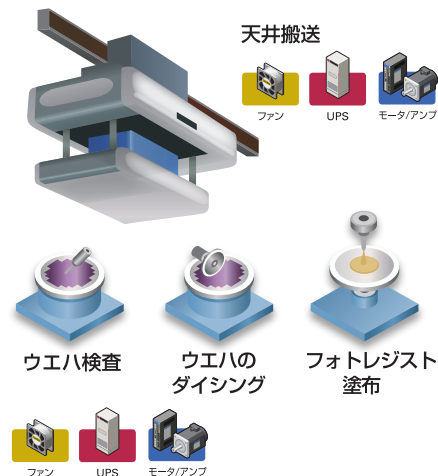
病院

病院では、医療現場で使われる検査・分析などの装置をはじめ、病棟で使用されるさまざまな機器の中に山洋電気の製品が使われています。

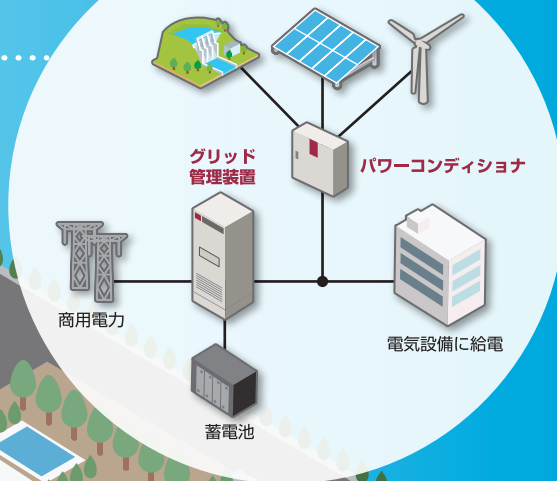


半導体製造工場

半導体製造工場では、搬送・検査などの生産ラインや、工場全体の安定した電源供給のために山洋電気の製品が使われています。



マイクログリッド



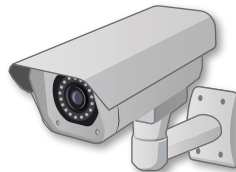
マイクログリッドは、太陽光発電や水力発電、風力発電などによる電力の供給側と、ビルや工場などの電力の需要側が ICT（情報通信技術）によって制御・管理され、電力を効率良く最適に活用するシステムです。このような電力ネットワークには、蓄電池を搭載したパワーコンディショナや高効率かつ耐環境性に優れたパワーコンディショナ、グリッド管理装置が求められます。

電気自動車充電



防災・インフラ

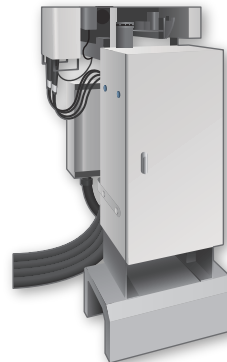
道路標識板や監視カメラ、携帯電話の基地局など、屋内や屋外の厳しい環境下に設置される装置にも、山洋電気の製品は耐久性に優れているため安心して使用できます。また、屋外用 UPS や耐久ファンは防水・防塵性能に優れています。



河川監視カメラ



道路表示装置

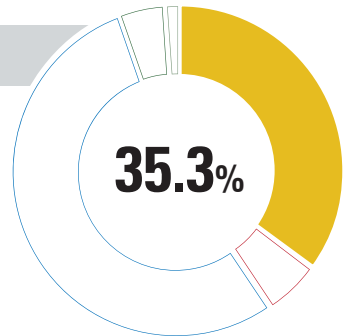
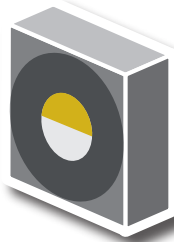


携帯電話基地局



クーリングシステム事業

San Ace(サンエース)は、冷却ファン、ファンユニットなど、山洋電気のクーリングシステム製品を総称するブランドです。



San Ace

クーリングシステム製品「San Ace」は、通信装置、制御機器、半導体製造装置向けの需要が堅調でした。また、蓄電池、EV用充電器向けの需要も増加しました。

その結果、売上収益は20,785百万円(前年同期比38.6%増)、受注高28,245百万円(前年同期比14.0%増)、受注残高39,466百万円(前年同期比143.5%増)となりました。

- | | | |
|-------------|-----------|-----------------|
| 主要製品 | ● DCファン | ● エアフローテスター |
| | ● 耐久ファン | ● PWMコントローラ |
| | ● ACファン | ● San Aceコントローラ |
| | ● ファンユニット | ● 空気清浄機 |

売上収益

20,785 百万円

受注高

28,245 百万円

受注残高

39,466 百万円

新製品

DCファン

San Ace 80 9RAタイプ

業界トップ※1の低騒音を実現した□80×38 mm厚のDCファンです。

当社従来品※2に比べて、騒音レベルが3 dB(A)、消費電力が25.5%低減しました。※3

※1 製品発表時において、軸流DCファンとして、同サイズ、同等の冷却性能の場合、当社調べ。

※2 当社従来品は、DCファン□80×38 mm厚「San Ace 80」9Gタイプ(型番：9G0812G101)。

※3 型番：9RA0812G1001の場合。



用途 電源装置、計測機器、産業用コンピュータなど

新製品

空気清浄機

San Ace Clean Air

大風量、静音で広い空間を集塵し、除菌・脱臭もできる空気清浄機です。

16.5 m³/分の大風量^{※1}で、77畳の大空間を30分で清浄できます。^{※2}

また、運転音は54 dB(A)^{※1}、消費電力は90 W^{※1}を実現、効率よく快適な空間を維持できます。
搭載の送風ファンは、冷却ファンメーカーである当社独自の静音技術により新たに開発しました。

※1 運転モード 3 [強] で動作時。

※2 日本電機工業会規格JEM1467に基づく試験方法による算出。

用途

病院待合室、保育園、学校の教室、会議室、ジム、ホテルのロビー、介護・福祉施設、美容室、飲食店など



新製品

防水ファン

San Ace 40W 9WPAタイプ

業界トップ^{※1}の高風量、高静圧を実現した□40×20 mm厚と□40×28 mm厚の防水ファンです。

保護等級IP68^{※2}の防水、防塵性能です。厳しい環境でも安定した動作を保ちます。

※1 製品発表時において。防水ファンとして。同サイズの場合。当社調べ。

※2 保護等級(IPコード)は、IEC(国際電気標準会議)60529で規定されています。

保護等級は、当社製のファンでは電気部品(モータコイルと電子部品)にのみ適用されます。

電気部品以外の機械的部品については、評価の対象外です。

IP68:

- ・ 塵埃の侵入があってはならない
- ・ 潜水状態でも、有害な影響を生じる水の浸入がないこと

用途

通信基地局、急速充電器、監視カメラなど



□40×20 mm厚

□40×28 mm厚

新製品

ACDCファン/防水ACDCファン

San Ace 120AD / San Ace 160AD

業界トップ^{※1}の高風量、高静圧を実現した□120×38 mm厚と□160×51 mm厚のACDCファン^{※2}と防水ACDCファンです。

定格電圧はAC100～240 Vで、AC100 V系・AC200 V系のどちらでも使用できます。

※1 製品発表時において。ACDCファン、防水ACDCファンとして。同サイズの場合。当社調べ。

※2 ACDCファン: AC(交流)で動作するDC(直流)ファンです。ACファンは一般的な交流電源で動作するので手軽ではありますが、DCファンに比べて性能が落ちます。一方、DCファンはACファンに比べて性能が高いものの、直流電源が必要です。ACDCファンは、ACで動作するDCファンなので、両者の長を併せ持っています。

用途

制御盤、食品機械、植物工場など

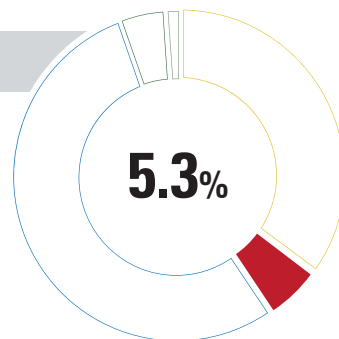
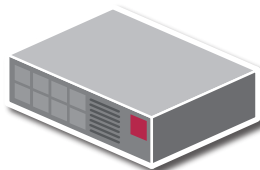


San Ace 120AD

San Ace 160AD

パワーシステム事業

SANUPS(サナップス)は、
無停電電源装置(**UPS**)、インバータ、
太陽光発電システム用パワーコンディショナ
など、山洋電気のパワーシステム製品を
総称するブランドです。



SANUPS

パワーシステム製品「SANUPS」は、半導体業界からの需要が堅調でした。
一方、社会インフラ向けの需要は低調でした。

その結果、売上収益は3,115百万円(前年同期比0.2%減)、受注高4,007百万円(前年同期比5.5%減)、受注残高3,894百万円(前年同期比31.8%増)となりました。

- | | | |
|------|---------------|---------------|
| 主要製品 | ●UPS(無停電電源装置) | ●インバータ |
| | ●パワーコンディショナ | ●無瞬断切換装置 |
| | ●グリッド管理装置 | ●防災用ディーゼル発電装置 |
| | ●瞬時電圧低下補償装置 | ●移動電源車 |

売上収益

3,115 百万円

受注高

4,007 百万円

受注残高

3,894 百万円

新製品

常時インバータ給電方式UPS SANUPS A11N

高効率で並列冗長運転ができる常時インバータ給電方式UPSです。

変換効率は94%以上(最大95.1%)^{※1}で、並列冗長運転ができるため、省エネルギーおよび信頼性の向上に貢献します。

5 kVAのユニットを最大4台組み合わせて、出力容量は最大20 kVAまで拡張できます。

また、AC電源がなくてもバッテリーから起動し、出力することができるバッテリスタート機能^{※2}を選択できます。

※1 出力容量5 kVA、単機の場合。

※2 注文時に選択できる機能です。

用途

サーバ、通信基地局、工場設備など



10 kVA

新製品

UPS用 LANインタフェースカード

無停電電源装置(UPS)をネットワーク接続するための周辺機器です。

UPSの状態をリアルタイムに監視して、電源トラブルを未然に防ぎ、サーバやシステムを守ります。データセンタなどの高速大容量ネットワークや、多様なネットワーク環境でも使用できるように、1ギガビットのEthernetを搭載しました。スマートフォンやタブレットPCからも無線通信^{※1}で監視ができます。

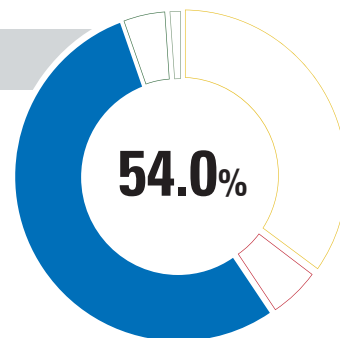
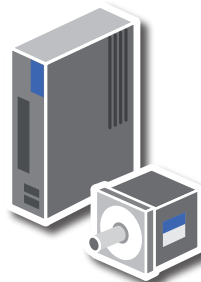
また、PCがなくても、USBメモリを取り付けるだけで簡単にUPSの動作情報を取り出せます。

※1 市販の当社推奨Wi-Fiドングルが必要。



サーボシステム事業

SANMOTION(サンモーション)は、
サーボモータ・アンプ、ステッピングモータ・
ドライバ、コントローラ、エンコーダなど、
山洋電気のサーボシステム製品を
総称するブランドです。



SANMOTION

サーボシステム製品「SANMOTION」は、半導体製造装置、ウェハ搬送ロボット向けの需要が引き続き好調でした。

また、電子部品実装機、射出成形機、工作機械、ロボット向けの需要は、中国市場の一部で景気減退の影響が見られたものの、全体としては堅調に推移しました。

その結果、売上収益は31,744百万円(前年同期比9.9%増)、受注高39,674百万円(前年同期比5.3%増)、受注残高45,563百万円(前年同期比84.4%増)となりました。

- 主要製品**
- ACサーボシステム
 - ステッピングシステム
 - DCサーボシステム
 - モーションコントローラ
 - リニアサーボシステム

売上収益

31,744 百万円

受注高

39,674 百万円

受注残高

45,563 百万円

新製品

サーボシステム SANMOTION G

業界トップ^{*1}のサーボ性能、小型・軽量、省エネルギー化を実現したサーボシステムです。
装置を高速かつ高精度に力強く制御できるので、装置の生産性と加工品質の向上に貢献します。
当社従来品^{*2}と比べて、以下のサーボ性能の向上を図りました。

- ・速度周波数応答^{*3}：1.6 倍(3.5 kHz)
- ・高速域の出力拡大：1.15 倍
- ・位置決め整定時間：1/3
- ・エンコーダ分解能：16 倍(27 bit、バッテリーレス)

また、当社従来品^{*2}と比べて、モータ質量を最大28%、アンプ質量を最大5%低減するとともに、モータ全長を最大22%短縮しました。

※1 製品発表時において。同出力の産業用サーボシステムとして。当社調べ。

※2 当社従来品サーボシステム「SANMOTION R」との比較。

※3 サーボアンプからの速度指令にモータがどのくらい安定して追従できるかを示した周波数。数値が高いほど、指令に対して忠実に動作する。

用途 半導体製造装置、ロボット、工作機械、食品機械、医療機器など



新製品

サーボシステム SANMOTION

省エネルギーで、速い加速と減速ができるリニアサーボモータのラインアップを拡充しました。
当社従来品^{*1}に比べて、リニアモータコイルの小型・軽量化と最大推力の増加を図り、
最大加速度が7%向上します。さらに高速域の推力を増大しました。

装置のサイクルタイムを短縮することができ、生産性の向上に貢献します。

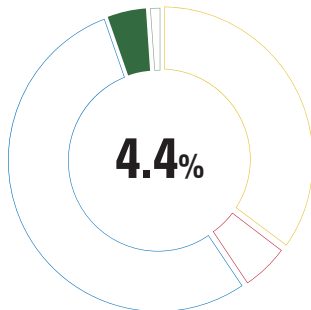
また、当社従来品^{*1}に比べて電力損失を10%低減し、装置の省エネルギー化に貢献します。
発熱が低いので、装置の熱伸びに対する影響が少なく、高精度化を実現します。

※1 当社従来品 リニアサーボモータ フラットタイプ [コア付] (型番：DS045CC1AN)。

用途 プリント基板の表面実装機の送り軸、搬送装置など



電気機器販売事業



電気機器販売事業は、産業用電気機器、制御機器、電機材料などの販売をおこなう事業です。

半導体業界、医療機器向けの堅調な需要に支えられ、産業用電気機器、制御機器、および電気材料の販売は増加しました。一方、太陽光発電および鉄道事業向けの需要は低調でした。

その結果、売上収益は2,577百万円(前年同期比18.8%増)、受注高2,509百万円(前年同期比0.7%減)、受注残高1,548百万円(前年同期比14.5%増)となりました。

売上収益

2,577 百万円

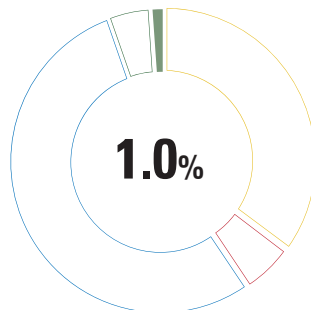
受注高

2,509 百万円

受注残高

1,548 百万円

電気工事事業



電気工事事業は、産業用コントロールシステムの設計、開発、施行、保全工事を提供する事業です。

主要顧客である鉄鋼業界からの需要は堅調に推移しました。一方、電気工事の需要は従来の水準に回復するまでには至らず、低調でした。

その結果、売上収益は613百万円(前年同期比1.4%減)、受注高696百万円(前年同期比11.0%減)、受注残高554百万円(前年同期比21.5%減)となりました。

売上収益

613 百万円

受注高

696 百万円

受注残高

554 百万円

TOPIC 1 フィリピンに新工場を建設

当社グループの主要な販売市場である通信装置、半導体製造装置向けをはじめ、医療機器やEV用急速充電器向けの市場拡大を見込み、将来を見据えた生産能力の増強を目的に、グループ会社であるSANYO DENKI PHILIPPINES, INC.の敷地内に新たに第4工場を建設いたします。第4工場の建設によって、SANYO DENKI PHILIPPINES, INC.の生産能力は約25%増となります。

今後も山洋電気グループでは、世界中のお客さまに均一で高品質な製品をスピーディにお届けするため、製品の供給体制を強化してまいります。



SANYO DENKI PHILIPPINES, INC.
第4工場完成イメージ

TOPIC 2 ドイツ・ミュンヘンに営業拠点を開設

2021年4月からスタートした「第9次中期経営計画」では、「世界中のいかなるお客さまへも、トップブランドにふさわしい高品質な製品とサービスを提供する」ことを行動指針のひとつに据え、その実現を目指しグループ全体でさまざまな施策に取り組んでいます。このような取り組みのなか、2022年4月にドイツ第3の都市であるバイエルン州ミュンヘンに新たな支店を設立しました。ミュンヘンは自動車産業をはじめ、電気・電子機器、重機械産業のドイツにおける中核都市です。ミュンヘン支店は、ドイツ南部とオーストリアを中心に、幅広い市場に向けた新規開拓と現地代理店のサポートをおこなってまいります。



ミュンヘン支店 外観

TOPIC 3 長野県上田地域における森林保全活動「にぎやかな森プロジェクト」に参画

当社グループは、長野県上田地域で展開される森林保全活動「にぎやかな森プロジェクト」に参画いたしました。

本プロジェクトは、長野県上田地域の4市町村(上田市、東御市、長和町、青木村)において、行政と企業が一体となり、「いきものや人でにぎわう、地球にいい森づくり」を目指すプロジェクトです。SGEC認証森林^{*}を対象に、森林・路網整備、生物多様性・CO₂吸収・天然更新など林業課題の調査研究、交流活動・情報発信をおこなっていきます。当社グループでも、植栽活動や調査結果報告会に参加してまいります。

^{*} SGEC認証森林(エスジェックにんしょうしんりん)

持続的な森林経営をおこなう森林として国際的な基準により審査・認証された森林です。



協定調印式の会場

(写真中央：当社取締役 専務執行役員 中山 千裕)

TOPIC 4 役員退職慰労金制度の廃止および譲渡制限付株式報酬制度の導入

当社は、役員退職慰労金制度を2022年6月15日開催の株主総会の終結の時をもって廃止いたしました。これにともない、在任中の取締役および監査役について、株主総会終結の時までの在任期間に応じた退職慰労金の打ち切り支給と、その支給の時期を対象となる取締役および監査役の退任の時とする旨の議案を株主総会に付議し、決議されました。また、当社の取締役(社外取締役を除く。以下、「対象取締役」という。)に対して当社の企業価値の持続的な向上を図るインセンティブを与えるとともに、対象取締役と株主のみなさまとの一層の価値共有を進めることを目的として、譲渡制限付株式報酬制度を導入いたしました。なお、当社執行役員に対しても、役員退職慰労金制度の廃止と譲渡制限付株式報酬制度の導入をいたしました。

株式総数および株主数

(2022年9月30日現在)

発行可能株式総数	50,000,000株
発行済株式の総数	12,972,187株
当第2四半期末株主数	4,679名

大株主

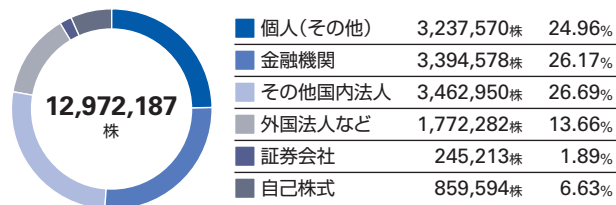
(2022年9月30日現在)

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
協同興業株式会社	1,845	15.24
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	1,498	12.37
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	542	4.48
山洋開発株式会社	318	2.63
日本生命保険相互会社	298	2.47
株式会社みずほ銀行	227	1.88
上田八木短資株式会社	218	1.80
株式会社八十二銀行	195	1.61
三井住友信託銀行株式会社	194	1.60
東京海上日動火災保険株式会社	191	1.58

(注) 1. 持株数は、千株未満を切り捨てて表示しております。
2. 当社は自己株式859千株を所有しておりますが、上記の表には記載しておりません。

所有者別株式分布状況

(2022年9月30日現在)



会社概要

(2022年9月30日現在)

会社名	山洋電気株式会社
創業	1927年8月
本社所在地	〒170-8451 東京都豊島区南大塚3-33-1 TEL 03-5927-1020
資本金	99億円
社員数	3,691名(グループ全体)

主なグループ会社

(2022年9月30日現在)

日本	山洋工業株式会社 山洋電気テクノサービス株式会社 山洋電気ITソリューション株式会社
アジア	SANYO DENKI PHILIPPINES, INC. 中山市山洋电气有限公司 山洋电气(上海)贸易有限公司 上海山洋电气技术有限公司 山洋電気(香港)有限公司 山洋电气贸易(深圳)有限公司 山洋电气精密机器维修(深圳)有限公司 台灣山洋電気股份有限公司 山洋电气(天津)贸易有限公司 SANYO DENKI KOREA CO., LTD. SANYO DENKI (THAILAND) CO., LTD. SANYO DENKI INDIA PRIVATE LIMITED
北アメリカ	SANYO DENKI AMERICA, INC.
ヨーロッパ	SANYO DENKI EUROPE S.A. SANYO DENKI GERMANY GmbH

取締役および監査役

(2022年9月30日現在)

※代表取締役	山本 茂生
※代表取締役	児玉 展全
※取締役	中山 千裕
※取締役	松本 吉正
※取締役	北村 恵一
取締役	三宅 雄一郎
取締役	鈴木 徹
取締役	諏訪 宏
取締役	栗原 慎
常勤監査役	林 廣明
常勤監査役	天野 文雄
常勤監査役	宮城 典子
監査役	山本 武

※印の取締役は、執行役員を兼務

株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年4月1日から起算し3ヶ月以内
期末配当受領株主確定日	毎年3月31日
中間配当受領株主確定日	毎年9月30日
公告の方法	電子公告の方法によりおこないます。 (やむを得ない事由によって電子公告による 公告をすることができない場合は、日本経済 新聞に掲載しておこないます。)
株主名簿管理人	東京都中央区日本橋茅場町1-2-4 日本証券代行株式会社
同事務取扱場所	東京都中央区日本橋茅場町1-2-4 日本証券代行株式会社 本店
お問合せ先	〒168-8620 東京都杉並区和泉2-8-4 日本証券代行株式会社 代理人部 電話 0120-707-843 (フリーダイヤル)

●各種手続のご連絡先

- ・未払配当金のお支払いについては、株主名簿管理人へご連絡ください。
- ・住所変更、単元未満株式の買取・買増、配当金受取方法の指定など証券会社をご利用の株主さまは、お取引の証券会社へご連絡ください。

※証券会社をご利用でない株主さまへ
特別口座の口座管理機関である日本証券代行株式会社へご連絡ください。

特別口座での手続用紙のご請求はインターネットでも受け付けております。

ホームページアドレス
《日本証券代行》<https://www.jsa-hp.co.jp/name/index.html>

当社「IR情報」ホームページアドレス
<https://www.sanyodenki.co.jp/ir/index.html>

本ビジネスレポートには、業績予想などに関する記述が含まれておりますが、実際の業績はさまざまな要因により予想数値と異なる可能性があります。

山洋電気株式会社

本社 〒170-8451 東京都豊島区南大塚3-33-1
電話 (03) 5927 1020
ホームページ <https://www.sanyodenki.co.jp/>